

長岡防災シビックコア地区

(新潟県長岡市)

- 計 画 期 間 平成 18 年度～平成 22 年度
- 面 積 11.5 h a
- 交付対象事業費 2,624 百万円
- 市人口 262,387 人

ポイント 長岡地域の防災性の向上と快適な都市生活を支える広域防災拠点の形成

地区概要 長岡市の中心市街地における唯一の大規模空地という特性を生かし、新潟県中越大震災の被災を教訓として都市の防災性の向上を主要な柱とし、都市生活に必要な各種サービスの提供及び都市の豊かさが実感できる質の高い地区整備を推進する。

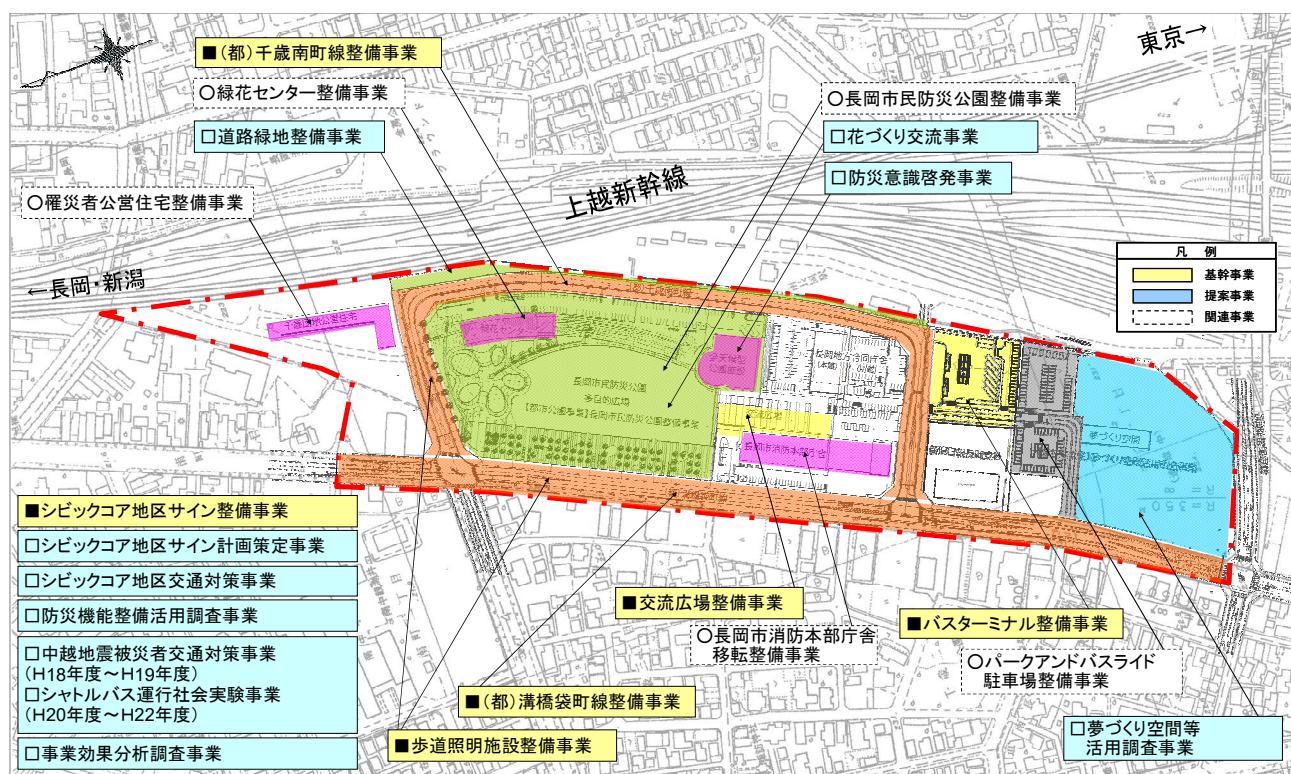
目 標 新潟県中越大震災の被災者を中心とした住民による「新たなまちづくり」と同地区における「長岡防災シビックコア地区整備計画」とのコレボレートにより『住民参加による新たな広域防災拠点の形成』を図る。

指 標 安全安心な防災拠点の形成と快適な都市生活を支える広域拠点の形成に伴う相乗効果を期待するものである。

地域防災訓練参加者数	5,659 人	(H16)	→	10,443 人	(H23)
消防本部庁舎見学者数	2,139 人	(H16)	→	4,727 人	(H23)
公園利用者数	0 人/日	(H16)	→	1,135 人/日	(H23)

事業内容 基幹事業 (2,370 百万円) → 街路 (幅員 18.0m～21.0m、延長 1,360m)、交流広場整備 (A=1,152 m²)、歩道照明 (L=2,200m)、バスターミナル整備 (A=4,450 m²)、サイン整備 (N=19 基)

提案事業 (254 百万円) → 道路緑地整備 (1,807 m²)、中越地震被災者交通対策事業、夢づくり空間等活用調査事業、防災機能整備活用調査事業、交通対策事業、サイン計画策定事業、防犯意識啓発事業、シャトルバス運行社会実験、花づくり交流事業、事業効果分析調査



地区の現況と課題

- ・長岡市では、新潟県中越地震の被災を教訓として都市の防災性の向上が急務となっている。
- ・当地区を含む長岡市の中心市街地は、公共施設の郊外化など空洞化が進展する一方、多くの国及び県の機関は、市内各所に分散し、土地利用の効率性や行政サービスの利便性が十分に発揮されていない状況にある。
- ・当地区は長岡市中心市街地唯一の大規模空地であり、都市の防災性の向上と快適な都市生活が実感できる地区整備が望まれている。

提案事業の特徴

シャトルバス運行社会実験事業

シビックコア地区のパーク&バスライドの拠点としての可能性等を検討するため、市の交通施策に基づく社会実験として、JR 長岡駅とシビックコア地区を結ぶ路線バス（シャトルバス）を整備し検証を行う。

防災意識啓発事業

全天候型公園施設（市民防災センター）内に市民に対する防災意識啓発に必要な防災教育プログラムの開発、展示を行う。

花づくり交流事業

地域住民が種から花を育て、心の交流を目指した花づくりを実施することで、被災者の心の復興と災害時の共助の精神の醸成を図るため、イベントを開催する。

計画策定プロセス

土地利用計画策定委員会の開催

市民や学識経験者などで構成する「長岡操車場地区土地利用計画策定委員会」を設置し土地利用計画の検討を実施（H13～H14）、シビックコア地区整備制度を導入する方針が示された。

長岡シビックコア地区整備計画策定協議会の設置

土地利用計画策定委員会での方針を受けて、市民、学識経験者、国・県・市の関係行政機関の職員で構成された長岡シビックコア地区整備計画策定協議会を7回（H14～H17）開催し、当地区の整備方針等の検討を行い、「長岡防災シビックコア地区整備計画（案）」のとりまとめを行った。

整備計画書の提出

平成 17 年 11 月、県を経由して「長岡防災シビックコア地区整備計画（案）」を国へ提出、同月、国の同意を得た。



▲ 地区全景 整備前(仮設住宅) ⇒ 整備後



▲ 交流広場活用事例(防災関連イベント)



▲ シビックコア地区サイン整備(案内・誘導サイン)



▲ 防災意識啓発事業(防災学習展示)



▲ 花づくり交流事業(植栽イベント)